

令和7年3月3日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立早稲田幼稚園
所在地	新宿区早稲田南町25

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「なんだろう？ ふしぎだな？ 幼児の心が動く保育を目指して」
—自然環境の見直しと援助の工夫—

<テーマの設定理由>

本園の園庭には様々な植物や生き物と触れることができる環境があり、幼児らは日々様々な出会いを繰り返している。その中で、本園の幼児の課題として、自然の事象に対し、不思議に感じたり疑問に思ったりする姿はあるがそれを探究しようとする姿があまり見られないことがあげられた。

私たち保育者は、幼児には身近な自然と触れ合う体験を積み重ね、不思議を感じ、感動し、好奇心と探究心をもち自然や命の大切さにしようという気持ちをもってほしいと願っている。

そして、私たち保育者としての課題は、園庭の豊かな自然環境を活かしきれていないところがある。私たち自身が園庭の環境について知り、見直し、工夫していくことで、幼児の自然との関わりや出会いの機会が増え、幼児がより自然環境に興味関心をもち、じっくりと関わり、探究しようとする姿につながるであろうと考えた。

そこで、本研究では幼児が自然との出会いに心を動かし、好奇心と探究心を深めていけるように園内の自然環境を見直し、よりよい援助や環境の構成の仕方について探っていく。

2. 活動スケジュール

- ・毎月1回園内研究会を行い、うち3回は研究保育を行い、講師の先生から指導を踏まえ、園庭マップと栽培計画を作成。改善を行う。
- ・自然の専門家の指導で、幼児対象の園庭探検、降園後、保育者対象の園庭探索を行う。
- ・環境学習サークルの大学生と、園庭での遊びを中心に、自然環境と幼児のかかわりの実態把握と、今後の支援の手立てを探る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・小さな池を整備し、ビオトープを作る。
- ・園庭での遊びに活用できるテーブルやベンチ、日よけの parasol。
- ・自然物を遊びに取り入れやすくするためのコーナー。
- ・栽培活動のための、プランター、培養土、腐葉土、種子、苗、肥料、土のリサイクル材。
- ・飼育物のための、飼育ケース、虫取り網、たらい、木材。
- ・水遊びのための、といやヒューム管、透明空き容器、たらい。
- ・絵本、図鑑、タブレット

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

5 歳児

- ・自然物、栽培物を遊びに取り入れる。(色水遊びから夏祭りのジュースやさんごっこ。といやヒューム管を使った砂と水遊び。木の枝や木の実を使った置き物作りなど)
- ・オタマジャクシ、ヤモリ、バッタ、ザリガニ、カタツムリなど、見つけた生き物の飼育。

4 歳児

- ・泥団子作り。
- ・園庭のムシムシマップ作り。

3 歳児

- ・キュウリ、ミニトマトの栽培。
- ・園庭の自然物との出会い。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

5 歳児

- ・落ちていたグレープフルーツ（未成熟）やびわの実を使い、香り付きのジュース作りを楽しみ、アロマティカスの葉を使うとハーブティーのような香りや色になること、マリーゴールドは、オレンジより黄色い方がよく色が出ることなどに気が付いた。紫色のペチュニアは、濃い紫の色水ができ、石鹼水を混ぜると薄い水色に色が変わることにも気が付き、他学年の幼児にも知らせていた。ジュース屋の遊びが 5 歳児が、いくつかのグループで行う夏祭りの遊びにつながった。

4 歳児

- ・作った泥団子を、といで転がしたことがきっかけで、壊れない泥団子を作るにはどうしたらよいか、試す姿が見られた。
- ・つかまえたバッタと葉っぱを飼育ケースに入れて見ていると、バッタが葉っぱを食べているところを見ることができた。口を動かしていること、大きな声を出したら食べるのをやめたので、静かに見ることなど、気が付いたことを、発言していた。

3 歳児

- ・栽培物は、変化に気が付くことができるよう言葉をかけた。においや感触等、五感で感じられるようにした。子供のつぶやきを受け止め、興味関心を示したことが実現できるようにした。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

・園庭の環境を見直すことで、保育者自身が改めて保育の中で、園内の自然をどのようにいかしていくことができるかを考え直すことができた。幼児が、見逃していることも、気づくことができるような働きかけや、計画的に時期を逃さず取り組めるようにしていきたい。発達に応じたかかわり方を積み重ねることで、より主体的な探究活動につなげていきたい。

以上